

健康登山32:自然歩道16 (三輪駅～三輪山～長谷寺～長谷寺駅)

コース	三輪駅 0.9km/16 2.7km/44 1.3km/21	狭井神社 1.4km/58 仏教伝来の地碑 1.4km/23 十二柱神社 2.6km/47	三輪山 1.4km/29 玉烈神社 2.0km/33 長谷寺 1.7km/30	狭井神社 白山神社 長谷寺駅
水平距離	15.5km		断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離	15.0km			
累計高低差	登り749m、下り637m			
標準歩行時間	5:01			
実績歩行時間	5:20			



山行報告

山行日 2008・01・10(木) 天候 晴れ 参加者 9名

行動 三輪駅9:45 大神神社10:01 狭井神社10:16 三輪山11:18 狭井神社12:05 展望台12:17~12:51 仏教伝来の地碑13:48 玉烈神社14:09 春日神社14:24 白山神社14:35 十二柱神社14:55 長谷寺15:26~16:09 長谷寺駅16:35

記録

初詣を兼ねて大神神社のご神体である三輪山に登らせてもらった。狭井神社で登拝料を納め、鈴のついた三輪山登拝証の櫛を受け取り、これを肩にかけて歩くことになる。ご神体のため山内での撮影や飲食は禁止されている。また正月三ガ日と年5回の祭典日は登拝できないので要注意。途中、白装束で滝に打たれている人もおられ厳かな雰囲気だった。

下山後、狭井神社の西にある展望台で昼食をした。展望台からは来月歩く予定の大和三山や三輪山が近くに見え、遠くには金剛山なども見える絶好の休憩ポイントである。

午後は久延彦神社を経て東海自然歩道に戻り、大神神社、平等寺、金屋の石仏、海柘榴市観音などを通り、仏教伝来の地碑まで11月に歩いた道を辿った。

ここからは国道165号線に沿って初瀬まで歩くことになる。初瀬までに五つの集落があり集落ごとに神社があった。慈恩寺には玉烈神社、脇本には春日神社、黒埼には白山神社、出雲には十二柱神社、初瀬には長谷山坐神社がありすべて古い歴史のある神社である。

私たちはそれぞれの神社に立ち寄りながら、主として国道を歩いたが時間に余裕があれば集落内の道を縫うように歩く方がよいと思う。

玉烈神社では地元の方が集っておられ、尋ねられたので京都から来たかと答えると『京都にもいいところがあるのに・・・』と不思議そうに言われた。集落の氏神さんのような存在なのかも知れないと思った。でも樹齢800年の櫛は大きかった。

長谷寺の門前には3時30分に着き、40分ほどで本堂や五重塔を拝観させてもらった。途中で登廊から外に出て源氏物語に出てくる二もとの杉を見に行っ。藁で霜囲いされた寒牡丹が季節を感じさせる風景だった。花はきれいに咲いていた。

土産物店の立ち並ぶ参道をとおり近鉄長谷寺駅へ向かった。京都駅到着は18:18。

自然歩道 (三輪駅～三輪山～長谷寺～長谷寺駅)



大神神社で初詣
10:01



三輪山から下山
12:05



大和三山
12:17



三輪山
12:45



開運板に記入
13:04



仏教伝来の地碑
13:47



玉列神社の大榎
14:09



十二柱神社の
力士台座
14:59



長谷寺の寒牡丹
15:35



長谷寺の舞台
15:46

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：初瀬街道 三輪駅～長谷寺駅）

参考資料、HP、その他より

三輪そうめん：大神(おおみわ)氏の穀主(たねぬし)が始めたとされる。

父は天長2年(825)4月に従五位上になった三支(さいくさ)で、穀主はその次男。旅人がこの製法を持ち帰り、全国各地に広がったといわれる。

水、小麦粉、冬期の気温と湿度など、三輪山麓の風土がそうめん作りに適していたため、高級素麺の代表となった。

兵庫県揖保地方、三重県四日市地方など、素麺作りの盛んな地域にも、三輪の神は祀られ、素麺作りの守り神となっている。

大神とは：三輪明神 = 大物主大神。

大神といえば三輪の大神をさすところから、大神 = 三輪に神の字を用いるようなり、(大)三輪 = 大神(おおみわ)になったと、本居宣長が答えている。

大神神社：三輪山がご神体、社殿は本殿でなく拝殿である。

巨木を神として祀った古代人の姿を今に残す日本最古の神社と言われる。

初瀬街道：京、大和方面と伊勢を結ぶ初瀬街道は、現松阪市六軒から青山峠を越え名張を経て奈良の初瀬(長谷)へ至る街道。

斉王が伊勢へと赴いた道(伊勢街道)でもあった。

^{しきみあがたにます}志貴御県坐神社：小さな社と石碑があり、2000年昔の第10代崇神天皇の^{しきみずがきのみや}磯城瑞籬宮跡とされる。

栗原川と初瀬川に挟まれた地域は磯城嶋と呼ばれ、三輪山南麓大和川に接するこの辺りは、古代日本の経済、文化交流の地であった。

近くに29代^{しきしまのかなさしのみや}欽明天皇の住居跡とされる磯城嶋金刺宮跡があります。

欽明天皇は生まれながらの天皇といわれた。

この時代に仏教が正式に伝えられとされる。

また新羅征伐と百濟救援を図ったが失敗し、日本府のあった^{みまな}任那(伽那)も滅びる。

飛鳥の橘寺は別宮で、ここで聖徳太子が生まれている。

慈恩寺地区：三輪素麺の製造所が立ち並ぶ。

鎌倉時代は地頭に慈恩寺氏、南北朝期は一乗院門跡の荘園が慈恩寺に成立し

た

地区の人々は初瀬街道を封鎖したり、街道筋の出雲、黒崎地区へ度重なる侵犯など周辺地域と頻繁に揉め事を起こしたりしてきた。

江戸時代には織田有楽斎が領主のときもあった。

玉烈神社：大神神社の摂社。延喜式にも見える初瀬谷最古の神社

祭神：三輪の大物主大神の御子神(玉列王子神)

配神：天照大御神

春日大御神

境内に樹齢 800 年を越える欒(ケヤキ)の大木がある。

春日神社：初瀬街道の脇本地区にある。慶長 8 年(1603)建立の重文、三間春日造り。

白山神社：初瀬街道の黒崎地区にある。

境内は 21 代雄略天皇の『泊瀬朝倉宮跡』の石碑と

万葉集発祥の地で『万葉集発祥讚仰碑』がある。

白山神社の東、通称「天の森」一帯が、泊瀬朝倉宮はつせあさくらのみやのあったところとされる。

万葉集冒頭の歌は、雄略天皇の求婚の歌で、この辺りで詠まれたものとされる。

『籠もよ み籠もち 堀串もよ み堀串持ち この岡に 菜摘ます子 家
聞かな 名告らさね そらみつ 大和の国は おしなべて 吾こそ居れ
しきなべて 吾こそ座せ 吾こそば 告らめ 家をも 名をも』
(万葉集 1 - 1)

訳：『籠を持って、へらを持って、この岡で菜を摘んでいる娘さん、どちらの家の人が聞かせておくれ、名前も聞きたい、大和の国は私が治めているんだ、この辺り一帯は私が治めているのだ、私のほうから名乗ろう、家も名も』
(昔は、名を明かすことは、求婚に応じることを意味した)

黒崎地区は夫婦饅頭が有名なところであったという、饅頭を二つ合わせて食したことから

『黒さきと、いえども白き肌と肌、合わせて味わい女夫まんじゅう』と囃された。

十二柱神社：初瀬街道の出雲地区にある。

神代七代の神と地神五神を祀る。

第25代**武烈天皇**の泊瀬列城宮跡の石碑と、**野見宿弥**の五輪塔がある。

【神代七代】古事記から

- 1 国之常立神（くにのとこたちのかみ）
- 2 豊雲野神（とよぐもぬのかみ）
- 3 宇比邇神(男)須比智邇神(女)（ういじのかみ、すいじのかみ）
- 4 角杙神(男)活杙神(女)（つぬぐいのかみ、いくぐいのかみ）
- 5 意富斗能地神(男)大斗乃弁神(女)（おおとのじのかみ、おおとのべのかみ）
- 6 淤母陀琉神(男)阿夜訶志古泥神(女)（おもだるのかみ、あやかしこねのかみ）
- 7 伊邪那岐神(男)伊邪那美神(女)（いざなぎのかみ、いざなみのかみ）

【武烈天皇泊瀬列城宮跡】

仁賢天皇2年(489)武烈天皇生誕。498年8月8日父仁賢天皇崩御するがこの月物部氏の娘影媛を娶ろうとして、ライバル平群鮪を殺す。同年11月に鮪の父で大臣の平群真鳥を大伴金村連に命じて討たす。

同年12月泊瀬列城宮で即位。

武烈8年(501)列城宮で崩御。18歳であった。長谷の部名を残す。

武烈天皇に子は無く応神朝はここで終結する。

【野見宿弥五輪塔】

鎌倉初期の五輪塔で元は300mほど南方の初瀬川支流のほとりに塚と共にあったが、明治16年に農地整理のため塔のみ移された。

野見宿弥は垂仁天皇7年(前23)7月7日当麻蹠速との相撲(山の辺の道相撲神社)で知られるが、殉死の廃止を願って埴輪を考案、土師部の職に任命され、土師氏の祖先となる。(菅原道真の出目は土師氏である)

出身地の出雲から、工人をつれてきたので出雲の地域名が残る。

一方、相撲に敗れた当麻蹠速の墓とされる五輪塔(高さ2.44m)が二上山山麓の当麻寺参道横にある。

伊勢の辻：伊賀、伊勢方面と長谷寺方面の分岐を示す道標が有り、ここを伊勢の辻と呼ばれている。

はせやまくちにあります

長谷山口坐神社：長谷山の鎮め神として大山祇神を祭神とする。

狛犬に紐を巻きつけておくと家出した人が、無事に帰って来るといふ伝説がある。

ほっきいん
法起院

：長谷寺の塔頭で開山堂である。(門前町から少し奥まった所にある)
天平年間、道明上人と共に長谷寺を開基した徳道上人が亡くなって、彼の世に行ったところ、閻魔大王から西国三十三カ所霊場巡拝の功德を広めるようにと観音有縁の地三十三ヶ所を示されこの世に戻された。
現在の三十三ヶ所霊場巡りはこの徳道上人が始めたものとされる。

十三重塔は徳道上人の墓とされる。塔の周りに三十三カ所の寺院名が記された石がはめ込まれ1周10mほどの三十三カ所巡りが出来るようになっている。

この寺は三十三カ所霊場巡りの番外寺院として、霊場巡りを終えた人々が最後に参詣する寺院となっている。

長谷寺

：真言宗^{ぶざん}豊山派の総本山。初瀬寺、泊瀬寺、豊山寺とも言われた。
1300の観音信仰の聖地。牡丹、櫻など花の御寺としても知られる。
国宝『銅板法華説相図』を朱鳥元年(686)道明上人が天武天皇のために西の岡(本長谷寺)に安置されたのが創始と言われる。
その後聖武天皇の時代、東の岡に本尊十一面観音が開眼され寺院として形作られていく。本堂(国宝)に通じる登廊(屋根付き階段)の階段は339段ある。

平安時代、観音信仰が盛んになると、長谷寺参りが平安貴族の中で急速に流行、初瀬詣でと称され、平安文学(源氏物語、枕草子、更級日記)に度々登場する。源氏物語「玉鬘の巻」に出てくる^{ふたもとのすぎ}二本杉は現在も境内に残っている。

「^{たまかつら}玉鬘」源氏の悪友、^{とう}頭の中將と夕顔の間に生まれた姫(玉鬘)は三歳のとき母は行方知らずとなる。乳母に養育されて、乳母の夫の小弉の役職から筑紫に下がった。

小弉が病気で亡くなり、都にも帰りそびれて、年月が経つうち玉鬘は美しく成人する。

多くの求婚者のうち、肥後の豪族が強引に結婚を迫るので、乳母達と夜の闇にまぎれて船で筑紫を脱出し京にたどり着く。

玉鬘は行く末の加護を願って長谷寺へ参詣する。^{つばいち}椿市の宿で、偶然母夕顔の侍女であった右近に出会う。右近は姫に出会うようにと、時折二本杉のある長谷寺へ、初瀬詣でをしていたのであった。姫は此処で母夕顔の死を知らされる。右近の報せを聞いた源氏は養女に迎えようと逢い、そのとき口さんだ歌の中の「玉鬘」が巻名となり姫の呼び名となる。